

I 厚生労働科学研究費補助金総括研究報告書

総括研究報告書

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）

がん検診の精度管理における指標の確立に関する研究

研究代表者 高橋 宏和 国立がん研究センターがん対策研究所 研究員

研究要旨

本研究では、がん検診の精度管理における指標を確立することを目的とする。住民検診においては、これまでの住民検診の精度管理体制を見直し、チェックリストおよびプロセス指標の改定を検討する。また、地域保健・健康増進事業報告の項目や利活用法をわかりやすく整理する。職域検診においては、平成30年にとりまとめられた「職域におけるがん検診に関するマニュアル」の精度管理に関する指標を見直し、実施主体である保険者や事業者の実情を踏まえた改定を提案する。さらに、レセプト情報を用いたこれまでの検討をもとに、がん検診に関するデータの利活用を検討する。令和5年度は、班会議を1回開催し、住民検診および職域検診に関する問題点や対策について議論を行った。班会議において、がん検診指針の修正点、レセプトを用いたがん精密検査抽出ロジック、職域における乳がん・頸がん検診の実態、地域保健・健康増進事業報告の簡素化、HPV検査単独法による子宮頸がん検診導入におけるチェックリストなどに関する検討を中心に議論を重ねた。がん検診の精度管理の課題として、組織型検診に向けた整備、職域におけるがん検診に関するマニュアルの周知、がん検診教育プログラム、人間ドックなどにおけるがん検診の判定基準の統一などが挙げられ、引き続きほかの厚労科研研究班や学会などとの連携し、課題解決することが求められる。

A. 研究目的

日本におけるがん検診は、実施主体により地域住民検診（住民検診）および職域検診に大別されるが、その精度管理の状況は異なる。健康増進法のもとに、精度管理が整備されてきた住民検診と異なり、職域検診においては根拠となる法令がなく、多くの場合保険者や事業主により福利厚生の一環として提供されており、精度管理はされていないのが現状である。がん検診を行うことにより利益と不利益が生じるが、精度管理を適切に行うことで、利益を最大化し不利益を最小化することが可能となるため、がん検診のプログラムのいずれにおいても精度管理体制が整備され、検診の質を高めることが、国全体のがんの死亡率減少につながる。

本研究では、住民検診においては、これまでの住民検診の精度管理体制を見直し、チェックリストおよびプロセス指標の改定を検討する。また、地域保健・健康増進事業報告の項目や利活用法をわかりやすく整理する。職域検診においては、平成30年にとりまとめられた「職域におけるがん検診に関するマニュアル」の精度管理に関する指標を見直し、実施主体である保険者や事業者の実情を踏まえた改定を提案する。さらに、レセプト情報を用いたこれまでの検討をもとに、がん検診に関するデータの利活用を検討する。

B. 研究方法

○住民検診

1. 住民検診における精度管理体制の検討

がん検診の精度管理は、「がん検診の適切な把握法及び精度管理手法の開発に関する研究」（平成30年～令和2年度、代表者：高橋宏和）において

これまで検討されてきたが、精度管理の指標となるチェックリスト実施率やプロセス指標のモニタリングおよび評価・改善への取組を継続することにより、その体制を整備している。本研究では、これまでの検討を継続しつつ、実施主体となる自治体が受診者に対してより適切な受診行動を提供できる方策を、また不利益よりも利益が上回る検診を提供できるような方策を検討する。

2. 地域保健・健康増進事業報告の項目および利活用法の検討

地域保健・健康増進事業報告は、毎年市区町村から都道府県を通じて国に報告され、がん検診などの現状を把握し、適切な対策を検討するための資料となるが、項目が多く複雑であるなど問題点が指摘されていることから、簡素化することががん検診のあり方に関する検討会において求められている。また、自治体における利活用が進んでいないことから、わかりやすい利活用法が望まれている。本研究では、これらに対する解決策を検討し、自治体の精度管理機能の向上を目指す。

上記の検討は、「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」で推奨されている、5つのがん種の検診に精通している分担研究者を中心に実施する。具体的な役割は次の通りとする。（胃がん：加藤、大腸がん：斎藤・松田、肺がん：佐川・中山、子宮頸がん：青木・森定、乳がん：笠原、アセスメント：細野、マネジメント：町井）

○職域検診

1. 「職域におけるがん検診に関するマニユア

ル」の精度管理に関する検討

職域検診における指針として、平成30年に「職域におけるがん検診に関するマニュアル」が示されたが、解釈が難しく利活用は進んでいない。特に、チェックリストやプロセス指標に関する項目については、現状と乖離している箇所が指摘されている。これらの改善点を検討することにより、実施主体となる保険者や事業主の利活用を促し、職域における精度管理の水準が向上するよう検討する。

2. レセプト情報を用いたがん検診に関するデータの利活用に関する検討

がん検診の精度管理が整っている欧州の国などでは、がん検診に関するデータは一元管理され、即時性が高く、有事における対応や研究への利活用が進んでいる。日本では、がん検診データは主にそれぞれの実施主体が管理していることに加え、個人情報保護の観点などからその運用は限定的である。一方で、レセプト情報によるがん患者の特定などにより、職域におけるがん検診の精度管理への応用が期待されている。本研究では、レセプト情報のがん検診への活用に関するこれまでの検討を踏まえ、妥当性の評価や具体的な利用法を協力保険者において実施し、実装化に向けた検討を行う。

上記の検討は、レセプト情報のがん検診への利活用に精通している分担研究者（祖父江、小川、立道、雑賀）を中心に実施する。具体的な役割は次の通りとする。（抽出ロジックの検討：小川・祖父江、妥当性検討：小川・祖父江・立道・雑賀）

○関連研究との連携

本研究の実施にあたり、関連する厚生労働科学研究補助金による研究「がん検診事業の評価に関する研究（代表者；高橋宏和）」、「職域における、より質の高いがん検診を提供するための研究（代表者：祖父江友孝）」における取組と連携するよう努める。

（倫理面への配慮）

「ヘルシンキ宣言」「人を対象とする医学研究に関する倫理指針」を遵守して人権擁護に配慮する。なお、本研究は既存資料を用いた観察研究のため、対象となる個人に直接的な介入はなく、個人の人権は擁護されると考える。

C. 研究結果

令和5年度は、班会議を1回開催し、住民検診および職域検診に関する問題点や対策について議論を行った。本年度の結果を以下にまとめる（詳細は研究分担者の研究報告書参照）。

○がん検診指針の修正点について

- 「問診」は要精検判定の基準にすべきでない
ので指針の検診項目から外し、5がん共に医師

以外による「質問」にできないか

- 子宮頸がん検診の項目からコルポ・内診という文言を、それらの有効性が証明されていないために削除してはどうか
- 全がんにおいて精密検査方法を明記してはどうか
- 胃がん検診の「当面の間」の見直しにはデータ（特にプログラム感度の再解析など）での検討および慎重な議論が必要
- 子宮体がんに関する記述は削除すべき

○レセプトを用いたがん精密検査抽出ロジックについて

- 汎用化についてシステムとしてはできあがっているが普及のための組織体制を検討する段階
- 子宮頸がんでは論文では浸潤がんをターゲットに限定したが、検診ではCIN3+浸潤がんがターゲットなので、そちらに合わせたロジックを検討する必要がある
- システムの名前について

○職域における乳がん・頸がん検診の実態について

- 4年ぶりに行ったアンケートによると、対象年齢の遵守率は、子宮頸がんは高いが乳がんは低く、受診間隔はどちらもほとんどが1年間隔であった
- 検診受診勧奨は実施しても精検受診率の把握はできていない
- HPVやブレスト・アウェアネスなど新しい情報の把握は2~4割程度

○地域保健・健康増進事業報告の簡素化について

- 報告項目が複雑化する一方、細かい数値がどのように役立っているのか評価が必要
- 項目の整理は一気に減らすのではなく、吟味が必要

○HPV検査単独法による子宮頸がん検診導入におけるチェックリストについて

- 現在、まず厚労青木班で実施マニュアルを作成しており、それに基づいたチェックリストが作成できるよう検討することになる

○ロジックモデルについて

- 第4期がん対策推進基本計画のロジックモデルについて、精度管理の不利益に関する中間アウトカム指標の偽陽性割合の代替として、要精検率を用いてはどうか

D. 考察

令和5年度はがん検診のあり方に関する検討会でがん予防重点健康教育及びがん検診実施のための

指針が議論されていたため、班会議においても関心が高く、特に現状に沿わない点についての指摘がなされた。また、子宮頸がん検診の方法が変更になったことや、ロジックモデルによるがん対策の評価などについても、ほかの厚生労働科学研究班との連携のもと情報交換がなされた。地域保健・健康増進事業報告の簡素化については、データの利活用の評価が必要であることや、項目の整理には慎重な検討が必要なことが意見として挙げられた。がん検診による死亡率減少効果を高めるために、組織型検診に向けた整備が必要であり、現状では乖離の大きい住民検診と職域検診の統合に向けた議論は引き続き検討する必要がある。また、職域検診と住民検診の連携による、受診しやすい体制の構築や職域におけるがん検診に関するマニュアルの周知および、医学生教育・医師会教育プログラム・産業医教育におけるがん検診教育の導入・拡充についても、関連学会・団体などと連携して取り組む必要がある。

E. 結論

第4期がん対策推進基本計画においては、がん検診の精度管理はその充実が掲げられている。本研究班で議論された課題は今後も継続して検討する必要があるため、必要に応じてほかの厚生労働科学研究班との情報交換などを適宜行い、がん検診の精度管理向上に努める必要がある。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

研究代表者：高橋宏和

- 1) Hamashima C, Takahashi H. Cancer screening programs in Japan: Progress and challenges. *J Med Screen*. 2024 Mar 28;9691413241240564. doi: 10.1177/09691413241240564. Online ahead of print.
- 2) Machii R, Takahashi H, Miyazawa J, Nakayama T. Cancer screening in Japan 2 years after the COVID-19 pandemic: Changes in participation, 2017-2021. *Prev Med Rep*. 2024 Feb 10;39:102649. doi: 10.1016/j.pmedr.2024.102649.
- 3) Fujiwara M, Yamada Y, Etoh T, Shimazu T, Kodama M, Yamada N, Asada T, Horii S, Kobayashi T, Hayashi T, Ehara Y, Fukuda K, Harada K, Fujimori M, Odawara M, Takahashi H, Hinotsu S, Nakaya N, Uchitomi Y, Inagaki M. feasibility study of provider-level implementation strategies to

improve access to colorectal cancer screening for patients with schizophrenia: ACCESS2 (N-EQUITY 2104) trial. *Implement Sci Commun*. 2024 Jan 4;5(1):2. doi: 10.1186/s43058-023-00541-0.

- 4) Akiyama M, Ishida N, Takahashi H, Takahashi M, Otsuki A, Sato Y, Saito J, Yaguchi-Saito A, Fujimori M, Kaji Y, Shimazu T; INFORM Study Group. Screening practices of cancer survivors and individuals whose family or friends had a cancer diagnoses-a nationally representative cross-sectional survey in Japan (INFORM Study 2020). *J Cancer Surviv*. 2023 Jun;17(3):663-676. doi: 10.1007/s11764-023-01367-4.
- 5) Ogawa T, Takahashi H, Saito H, Sagawa M, Aoki D, Matsuda K, Nakayama T, Kasahara Y, Kato K, Saitoh E, Morisada T, Saika K, Sawada N, Matsumura Y, Sobue T. Novel Algorithm for the Estimation of Cancer Incidence Using Claims Data in Japan: A Feasibility Study. *JCO Glob Oncol*. 2023 Jan;9:e2200222. doi: 10.1200/GO.22.00222.
- 6) Machii R, Takahashi H. Japanese cancer screening programs during the COVID-19 pandemic: Changes in participation between 2017-2020. *Cancer Epidemiol*. 2023 Feb;82:102313. doi: 10.1016/j.canep.2022.102313.
- 7) 高橋宏和. がん予防. 健康保険組合保険事業マニュアル Page 87-94 (2023.12)

研究分担者 齋藤 博

- 1) 齋藤博. 大腸がん検診. *月間地域医学* 2024; 38: 131-137.
- 2) Ogawa T, Takahashi H, Saito H, Sagawa M, Aoki D, Matsuda K, Nakayama T, Kasahara Y, Kato K, Saitoh E, Morisada T, Saika K, Sawada N, Matsumura Y, Sobue T. Novel algorithm for the estimation of cancer incidence using claims data in Japan: a feasibility study. *JCO Global Oncol* 2023; 00: e2200222.
- 3) Bresalier RS, Senore C, Young GP, Allison J, Benamouzig R, Saito H, et al. An efficient strategy for evaluating new non-invasive screening tests for colorectal cancer: the guiding principles. *Gut* 2023; 0: 1-15. doi:10.1136/gutjnl-2023-329701.

研究分担者 佐川 元保

- 1) Ishibashi N, Tabata T, Nonomura R, Oshima Y, Sasaki T, Mitomo H, Sugawara T, Sagawa M. Efficacy of durvalumab plus chemotherapy in small-cell lung cancer with Lambert-Eaton myasthenic syndrome. *Resp*

Med Case Rep 2024, 47:101974,
doi.org/10.1016/j.rmcr.2023.101974

- 2) Ishibashi N, Tabata T, Nonomura R, Oshima Y, Sasaki T, Mitomo H, Sugawara T, Sagawa M, First case report of erlotinib plus ramucirumab treatment for lung carcinosarcoma with EGFR L858R mutation. Thorac Cancer 2023 Oct 14, DOI: 10.1111/1759-7714.15134

研究分担者 青木 大輔

- 1) Kikuchi Y, Shimada H, Yamasaki F, Yamashita T, Araki K, Horimoto K, Yajima S, Yashiro M, Yokoi K, Cho H, Ehira T, Nakahara K, Yasuda H, Isobe K, Hayashida T, Hatakeyama S, Akakura K, Aoki D, Nomura H, Tada Y, Yoshimatsu Y, Miyachi H, Takebayashi C, Hanamura I, Takahashi H. Clinical practice guidelines for molecular tumor marker, 2nd edition review part 2. International Journal of Clinical Oncology. 10.1007/s10147-024-02497-0, Mar.2024.
- 2) Komatsu H, Ikeda Y, Kawana K, Nagase S, Yoshino K, Yamagami W, Tokunaga H, Kato K, Kimura T, Aoki D. Impact of COVID-19 on gynecological cancer incidence: a large cohort study in Japan. International journal of clinical oncology 29(1) 72-77, Jan.2024.
- 3) Kawana K, Kobayashi O, Ikeda Y, Yahata H, Iwata T, Satoh T, Akiyama A, Maeda D, Hori-Hirose Y, Uemura Y, Nakayama-Hosoya K, Katoh K, Katoh Y, Nakajima T, Taguchi A, Komatsu A, Asai-Sato M, Tomita N, Kato K, Aoki D, Igimi S, Kawana-Tachikawa A, Danny J Schust. Phase I/II randomized clinical trial of an oral therapeutic vaccine targeting HPV for treatment of CIN2/3. JNCI cancer spectrum 7(6), Nov.2023.

研究分担者 松田 一夫

- 1) 松田一夫. I. 総論 大腸癌の疫学. 日本臨床増刊号 最新臨床大腸癌学 2023—最新の診断・治療と病態. 2023年 ;81巻増刊号 5 :7-11.

研究分担者 笠原 善郎

- 1) 笠原善郎, 宇佐美伸, 辻一郎, 古川順康, 安藝史典, 大村東生, 隈浩司, 鯉淵幸生, 坂佳奈子, 藤吉健児, 増田裕行, 村田陽子, 森田孝子, 吉田雅行. 第12回全国集計報告—事業評価の観点から—乳がん検診の全国集計2022(対象2019年度), 日本乳癌検診学会誌 2023, 32(1): 67-76 <https://doi.org/10.3804/jjabcs.32.67>

研究分担者 中山 富雄

- 1) Ogawa T, Takahashi H, Saito H, Sagawa M,

Aoki D, Matsuda K, Nakayama T, Kasahara Y, Kato K, Saitoh E, Morisada T, Saika K, Sawada N, Matsumura Y, Sobue T. Novel algorithm for the estimation of cancer incidence using claims data in Japan: a feasibility study. JCO Global Oncol 2023; 00: e2200222.

研究分担者 加藤 勝章

- 1) 加藤勝章. 胃内視鏡検診の基本的な考え方と対策型ならびに職域がん検診としての精度管理の課題について. 日本消化器内視鏡学会雑誌, 2023; 65: 5-18.
- 2) Ogawa T, Takahashi H, Saito H, Sagawa M, Aoki D, Matsuda K, Nakayama T, Kasahara Y, Kato K, Saitoh E, Morisada T, Saika K, Sawada N, Matsumura Y, Sobue T. Novel algorithm for the estimation of cancer incidence using claims data in Japan: a feasibility study. JCO Global Oncol 2023; 00: e2200222.

研究分担者 祖父江 友孝

- 1) Ogawa T, Takahashi H, Saito H, Sagawa M, Aoki D, Matsuda K, Nakayama T, Kasahara Y, Kato K, Saitoh E, Morisada T, Saika K, Sawada N, Matsumura Y, Sobue T. Novel algorithm for the estimation of cancer incidence using claims data in Japan: a feasibility study. JCO Global Oncol 2023; 00: e2200222.

研究分担者 小川 俊夫

- 1) Ogawa T et al. Novel Algorithm for the Estimation of Cancer Incidence Using Claims Data in Japan: A Feasibility Study. JCO Global Oncology. 2023 ;9, e2200222 (<https://doi.org/10.1200/GO.22.00222>).

研究分担者 立道 昌幸

- 1) 立道昌幸, 深井航太, 古屋佑子, 中澤祥子. 職域におけるがん検診の精度管理に関する課題と解決のための提言, 日本消化器がん検診学会 : 2024 : 1-9 : doi: 10.11404/jsgcs23011

研究分担者 齊藤 英子

該当なし

研究分担者 森定 徹

該当なし

研究分担者 雑賀 公美子

- 1) Ogawa T, Takahashi H, Saito H, Sagawa M, Aoki D, Matsuda K, Nakayama T, Kasahara Y, Kato K, Saitoh E, Morisada T, Saika K, Sawada N, Matsumura Y, Sobue T. Novel

algorithm for the estimation of cancer incidence using claims data in Japan: a feasibility study. JCO Global Oncol 2023; 00: e2200222.

研究分担者 細野 覚代

該当なし

研究分担者 町井 涼子

- 1) Machii R, Takahashi H, Miyazawa J, Nakayama T. Cancer screening in Japan 2 years after the COVID-19 pandemic: Changes in participation, 2017-2021. Prev Med Rep. 2024 Feb 10;39:102649. doi: 10.1016/j.pmedr.2024.102649.
- 2) Machii R, Takahashi H. Japanese cancer screening programs during the COVID-19 pandemic: Changes in participation between 2017-2020. Cancer Epidemiol. 2023 Feb;82:102313. doi: 10.1016/j.canep.2022.102313.

2.学会発表

研究代表者：高橋宏和

- 1) Impact of COVID-19 for cancer screening and cancer treatment in Japan. Takahashi H, Machii R. International Asian Cancer and Chronic Disease Screening Network (IACCS) 2023 (20231216) Tokyo
- 2) Impact of COVID-19 for cancer screening and cancer treatment in Japan. Takahashi H, Machii R. International Cancer Screening Network 2023 (20230620) Turin
- 3) 高橋宏和. がん検診事業の現状と方向性. 第33回日本乳癌検診学会学術総会 シンポジウム (20231125) 福岡
- 4) 町井涼子、高橋宏和、中山富雄. 「事業評価のためのチェックリスト」による対策型がん検診の精度管理水準の評価. 第82回公衆衛生学会総会 ポスター (20231102) つくば
- 5) 宮澤仁、町井涼子、高橋宏和、榎本建志、中山富雄. 新型コロナウイルス感染症拡大期における、がん検診の精密検査受診への影響の分析. 第82回公衆衛生学会総会 ポスター (20231102) つくば
- 6) 齊藤英子、雑賀公美子、森定徹、河野可奈子、中山富雄、高橋宏和、青木大輔. 日本の現状は、子宮頸がん検診で HPV 検査の結果が細胞診の判定に影響する可能性がある. 第32回日本婦人科がん検診学会 口演 (20231015) 東京一橋講堂

研究分担者 齋藤 博

該当なし

研究分担者 佐川 元保

- 1) 佐川元保. 肺がん検診ガイドライン 2022 への改訂 —その背景と解説—. 第64回日本肺癌学会学術集会. 2023. 11. 2. 千葉.
- 2) 石橋直也、田畑俊治、野々村遼、大島穰、佐々木高信、三友英紀、菅原崇史、佐川元保. 免疫チェックポイント阻害薬使用の有無がラムシルマブ+ドセタキセル併用療法へ与える影響の検討. 第64回日本肺癌学会学術集会、2023.11.3、千葉
- 3) 坂本周三、肥田泰三、佐藤亜希子、加藤剛、菅野通、八重柏政宏、高橋里美、桜田晃、野津田泰嗣、佐川元保、岡田克典、渡辺彰、齋藤泰紀. 当法人における胸部X線画像の症例集を利用した CAD の精度評価. 第64回日本肺癌学会学術集会、2023.11.2、千葉

研究分担者 青木 大輔

- 1) 齊藤英子、雑賀公美子、森定徹、中山富雄、青木大輔 : 「HPV 単独検診による子宮頸がん検診導入」について. 第31回日本 CT 検診学会学術集会.2024/3.
- 2) Saika K, Saitoh Aoki E, Aoki D. Laboratory issues in implementing cervical cancer screening with HPV testing the case of Japan. Part 1. 8th Biennial Meeting of Asian Society of Gynecologic Oncology.Dec.2023.
- 3) Saitoh Aoki E, Saika K, Aoki D, Laboratory issues in implementing cervical cancer screening with HPV testing the case of Japan. Part 2. 8th Biennial Meeting of Asian Society of Gynecologic Oncology.Dec.2023.
- 4) Kono K, Morisada T, Saika K, Saitoh E, Nishio H, Aoki D. Selecting HPV test kits for cervical cancer screening. 8th Biennial Meeting of Asian Society of Gynecologic Oncology. Dec.2023.
- 5) Morisada T, Saika K, Saitoh Aoki E, Kono K, Nakayama T, Kobayashi Y, Aoki D. Role of Cervical Cytology in Anticipation of the Implementation of HPV Primary Screening in Japan. The 8th Biennial Meeting of Asian Society Gynecologic Oncology.Dec.2023.
- 6) Aoki E, Saika K, Morisada T, Kono K, Aoki D. Cytological evaluation in the cervical cancer screening program in Japan independent of the test results for HPV? NILM VS. ASC-US in HPV-positive case. The 2023 Annual Global Meeting of the International Gynecologic Cancer Society.Nov.2023.
- 7) 河野可奈子、雑賀公美子、齊藤英子、森定徹、青木大輔 : HPV 検査の有用性を検証するコホート研究における初回検診後のアルゴリズム

- 遵守状況. 第 62 回日本臨床細胞学会秋期大会.2023/11.
- 8) 森定徹、寺本勝寛、端晶彦、高野浩邦、原田智佳子、中川陽子、竹綱正典、吉村一榮、手良向聡、小林 陽一、佐々木寛、青木大輔 : HPV 検査導入後の細胞診の役割 HPV 検診を検証する RCT の中間報告と HPV 陽性者のトリアージとしての細胞診. 第 62 回日本臨床細胞学会秋期大会.2023/11.
 - 9) 青木大輔. 今後の子宮頸がん検診プログラムの動向とそのマネージメント.第 32 回日本婦人科がん検診学会・総会.2023/10.
 - 10) 齊藤英子、雑賀公美子、森定徹、河野可奈子、中山富雄、高橋宏和、青木大輔. 日本の現状は、子宮頸がん検診で HPV 検査の結果が細胞診の判定に影響する可能性がある。第 32 回日本婦人科がん検診学会・総会.2023/10.
 - 11) 齊藤英子、青木大輔、雑賀公美子 : 子宮頸部上皮内病変の低侵襲な予後推定マーカー候補についての文兼的検索.第 13 回国際医療福祉大学学会学術大会.2023/09.
 - 12) 齊藤英子、雑賀公美子、高橋宏和、森定徹、青木大輔. 地域保健・健康増進事業データから見た子宮頸がん検診の精密検査についての課題. 第 65 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会.2023/07.
 - 13) 大野あゆみ、西尾博、椎名美季、谷本慧子、横田めぐみ、岩田卓、山上亘、青木大輔. 初期子宮頸がんに対し広汎術式を施行した症例の術前 QOL 調査.第 65 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会.2023/07.
 - 14) 松田理沙、西尾浩、松井友哉、椎名美季、大野あゆみ、谷本慧子、横田めぐみ、岩田卓、山上亘、青木大輔. 子宮頸がんに対する広汎子宮頸部摘出術後の子宮の萎縮率に関する検討.第 65 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会.2023/07.
 - 15) 春日義史、長谷川慶太、葉室明香、玉井桃、福岡優花、田中雄也、大谷利光、池ノ上学、青木大輔、田中守 : 広汎子宮頸部摘出術後妊娠管理および周産期予後の関する実態調査.第 145 回関東連合産科婦人科学会総会・学術集会.2023/06.
 - 16) 松田理沙、西尾浩、松井友哉、椎名美季、大野あゆみ、谷本慧子、横田めぐみ、春日義史、岩田卓、山上亘、田中守、青木大輔. 子宮頸がんに対する広汎子宮頸部提出術後の月経変化と妊娠成績に関する検討.第 145 回関東連合産科婦人科学会総会・学術集会.2023/06.
 - 17) 西尾浩、山上亘、青木大輔. 子宮頸がんに対する広汎子宮全摘出術の術式の要点と問題点. 第 145 回関東連合産科婦人科学会・総会.2023/6.
 - 18) 岡田結生子、齊藤英子、雑賀公美子、森定徹、青木大輔、高橋宏和. がん検診実施施設における住民検診と職域検診との精度管理状況の違い克服に向けての取り組み. 第 31 回日本がん検診・診断学会総会.2023/06.
 - 19) 河野可奈子、雑賀公美子、齊藤英子、森定徹、青木大輔. 住民検診における子宮頸がんを含む子宮頸部異常の発見率の特徴. 第 64 回日本臨床細胞学会総会春期大会.2023/06.
 - 20) 齊藤英子、小田瑞恵、木口一成、佐々木寛、青木大輔. 検診機関における検診委託元別の子宮頸がん検診の精度管理状況ーチェックリスト充足率からの検討ー. 第 75 回 日本産科婦人科学会学術講演会.2023/05.
 - 21) Matsuda R, Nishio H, Shiina M, Iwata T, Ohno A, Yokota M, Tanaka M, Aoki D. The diagnostic accuracy of intraoperative frozen examination of abdominal radical trachelectomy for early-stage cervical cancer in a series of 329 cases.第 75 回日本産科婦人科学会学術講演会.2023/05.
 - 22) Saitoh Aoki E, Saika K, Aoki D. Current Status and Challenges for of Cervical Cancer Screening in Japan. 35th International Papillomavirus Conference. Apr.2023.
- 研究分担者 松田 一夫
- 1) 松田一夫. 日本における内視鏡による大腸がん検診導入への期待～欧米との比較を含めて～. 第 62 回日本消化器がん検診学会総会パネルディスカッション 2 「大腸内視鏡検診導入の動向と実現可能な検診アルゴリズムを考える」基調講演. 2023 年 6 月 30 日.
 - 2) 松田一夫. 第 62 回日本消化器がん検診学会総会. 教育講演 「職域におけるがん検診の精度管理と事業評価の考え方について」司会. 2023 年 6 月 30 日.
 - 3) 松田一夫. 日本の大腸癌死亡率をさらに減少させるには. 第 61 回日本消化器がん検診学会大会 (JDDW2023) ワークショップ 6 「より効果的な大腸がん検診の実現に向けて」特別発言. 2023 年 11 月 2 日.
 - 4) 松田一夫. 日本の大腸がん死亡率は、なぜ諸外国並みに減少しないのか?～私たちが今すぐすべきこと～ 第 54 回日本消化器がん検診学会中国四国地方会 特別講演 2023 年 11 月 25 日.
- 研究分担者 笠原 善郎
- 1) 笠原善郎、安藝史典、宇佐美伸、大村東生、隈浩司、白岩美咲、高橋宏和、中嶋啓雄、増田裕行、森田 孝子、山口美樹、山口由美. 第 13 回乳癌検診学会全国集計報告 2020 年度版 (292 施設) 事業評価の観点から. 第 33 回 日本乳癌検診学会学術総会 福岡国際会議場

2023/11/15、国内、口頭

研究分担者 中山 富雄

- 1) 町井涼子、高橋宏和、中山富雄. 「事業評価のためのチェックリスト」による対策型がん検診の精度管理水準の評価. 第 82 回日本公衆衛生学会総会. 令和 5 年 11 月 2 日、筑波.

研究分担者 加藤 勝章

- 1) 加藤勝章. がん検診の基本的な考え方, 愛知県胃がん検診従事者研修会, 2023 年 1 月.
- 2) 加藤勝章. 本邦における胃がん検診精度管理の現状と将来への取り組み, 日本消化器がん検診学会・東海北陸支部 消化管撮影技術向上セミナー, 2023 年 1 月.
- 3) 加藤勝章. 本邦における胃がん検診精度管理の現状と将来への取り組み 人間ドック学会・地域交流セミナー, 2023 年 4 月.
- 4) 加藤勝章. 集団のパラダイムシフト—効率的で効果的な消化器がん対策を目指して—, 第 63 回日本消化器がん検診学会総会・会長講演, 2023 年 6 月.
- 5) 千葉隆士、只野敏浩、浅沼清孝、加藤勝章. 胃がん罹患リスク予測における胃炎診断の意義 第 63 回日本消化器がん検診学会総会, 2023 年 6 月
- 6) 加藤勝章. 対策型胃がん検診としての胃内視鏡検査における精密検査と要否判定の考え方 第 64 回人間ドック学会学術大会, 2023 年 9 月.
- 7) 浅沼清孝、千葉隆士、只野敏浩、加藤勝章. 宮城県の胃内視鏡検診における胃炎と診断された受診者の対応について, 日本消化器がん検診学会 第 61 回東北地方会, 2023 年 12 月.

研究分担者 祖父江 友孝

該当なし

研究分担者 小川 俊夫

- 1) 小川俊夫. 保険者を中心とした職域がん検診の精度管理. 第 96 回日本産業衛生学会シンポジウム 5 「今こそ産業保健に求められる職域のがん対策」(2023 年 5 月 10 日、栃木県宇都宮市・ライトキューブ宇都宮)
- 2) 小川俊夫. レセプトデータを用いたがん検診精度管理. 第 61 回日本癌治療学会教育シンポジウム「ビッグデータとがん医療」(2023 年 10 月 20 日、神奈川県横浜市・パシフィコ横浜)

研究分担者 立道 昌幸

- 1) 第 62 回日本消化器がん検診学会総会 教育講演 1 「職域におけるがん検診の精度管理と事業評価の考え方について」立道昌幸

研究分担者 齊藤 英子

- 1) 齊藤英子、雑賀公美子、森定徹、中山富雄、青木大輔. 「HPV 単独検診による子宮頸がん検診導入」について. 第 31 回日本 CT 検診学会学術集会.2024/3.
- 2) 富田圭祐、齊藤英子、五十嵐歩惟、磯前有香、永吉陽子、上田和、桂研一郎. 当院での子宮頸がん検診における要精検者の精検受診率向上のためのシームレス勸奨. 第 38 回日本女性医学学会学術集会.2023/12.
- 3) Saika K, Saitoh Aoki E, Aoki D. Laboratory issues in implementing cervical cancer screening with HPV testing the case of Japan. Part 1. 8th Biennial Meeting of Asian Society of Gynecologic Oncology.Dec.2023.
- 4) Saitoh Aoki E, Saika K, Aoki D, Laboratory issues in implementing cervical cancer screening with HPV testing the case of Japan. Part 2. 8th Biennial Meeting of Asian Society of Gynecologic Oncology.Dec.2023.
- 5) Kono K, Morisada T, Saika K, Saitoh E, Nishio H, Aoki D. Selecting HPV test kits for cervical cancer screening. 8th Biennial Meeting of Asian Society of Gynecologic Oncology. Dec.2023.
- 6) Morisada T, Saika K, Saitoh Aoki E, Kono K, Nakayama T, Kobayashi Y, Aoki D. Role of Cervical Cytology in Anticipation of the Implementation of HPV Primary Screening in Japan. The 8th Biennial Meeting of Asian Society Gynecologic Oncology.Dec.2023.
- 7) Aoki E, Saika K, Morisada T, Kono K, Aoki D. Cytological evaluation in the cervical cancer screening program in Japan independent of the test results for HPV? NILM VS. ASC-US in HPV-positive case. The 2023 Annual Global Meeting of the International Gynecologic Cancer Society.Nov.2023.
- 8) 河野可奈子、雑賀公美子、齊藤英子、森定徹、青木大輔: HPV 検査の有用性を検証するコホート研究における初回検診後のアルゴリズム遵守状況. 第 62 回日本臨床細胞学会秋期大会.2023/11.
- 9) 齊藤英子: がん検診の評価指標の「可視化プロジェクト」—精検受診率について—. 第 82 回日本公衆衛生学会総会.2023/10
- 10) 齊藤英子、雑賀公美子、森定徹、河野可奈子、中山富雄、高橋宏和、青木大輔. 日本の現状は、子宮頸がん検診で HPV 検査の結果が細胞診の判定に影響する可能性がある。第 32 回日本婦人科がん検診学会・総会.2023/10.
- 11) 小田瑞恵、齊藤英子、佐々木寛: 子宮頸がん検診における HPV 検査の役割—HPV 検査導入に向けたアルゴリズムの試案—. 第 32 回日本婦人科がん検診学会・総会.2023/10.
- 12) 齊藤英子: 職域がん検診はどう変わるか、変

- えていくか？職域におけるがん検診に関するマニュアルに基づく検診実施機関の精度管理. 第 64 回日本人間ドック学会学術大会.2023/09.
- 13) 齊藤英子、青木大輔、雑賀公美子：子宮頸部上皮内病変の低侵襲な予後推定マーカー候補についての文兼的検索.第 13 回国際医療福祉大学学会学術大会.2023/09.
- 14) 磯前有香、齊藤英子、五十嵐歩惟、桂研一郎：子宮頸がん検診要精検者における確実な精検受診実現のためのワンストップ勸奨. 第 64 回日本人間ドック学会学術大会.2023/09.
- 15) 齊藤英子、雑賀公美子、高橋宏和、森定徹、青木大輔. 地域保健・健康増進事業データから見た子宮頸がん検診の精密検査についての課題. 第 65 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会.2023/07.
- 16) 岡田結生子、齊藤英子、雑賀公美子、森定徹、青木大輔、高橋宏和. がん検診実施施設における住民検診と職域検診との精度管理状況の違い克服に向けての取り組み. 第 31 回日本がん検診・診断学会総会.2023/06.
- 17) 河野可奈子、雑賀公美子、齊藤英子、森定徹、青木大輔. 住民検診における子宮頸がんを含む子宮頸部異常の発見率の特徴. 第 64 回日本臨床細胞学会総会春期大会.2023/06.
- 18) 齊藤英子、木口一成、小田瑞恵、植田政嗣、佐々木寛：検診機関用チェックリスト調査から見える子宮頸がん検診での細胞診精度管理の課題.第 64 回日本臨床細胞学会総会春期大会.2023/06.
- 19) 齊藤英子、小田瑞恵、木口一成、佐々木寛、青木大輔. 検診機関における検診委託元別の子宮頸がん検診の精度管理状況ーチェックリスト充足率からの検討ー. 第 75 回 日本産科婦人科学会学術講演会.2023/05.
- 20) Saitoh Aoki E, Saika K, Aoki D. Current Status and Challenges for of Cervical Cancer Screening in Japan. 35th International Papillomavirus Conference. Apr.2023.
- in Japan. The 8th Biennial Meeting of Asian Society Gynecologic Oncology.Dec.2023.
- 4) Aoki E, Saika K, Morisada T, Kono K, Aoki D. Cytological evaluation in the cervical cancer screening program in Japan independent of the test results for HPV? NILM VS. ASC-US in HPV-positive case. The 2023 Annual Global Meeting of the International Gynecologic Cancer Society.Nov.2023.
- 5) 河野可奈子、雑賀公美子、齊藤英子、森定徹、青木大輔：HPV 検査の有用性を検証するコホート研究における初回検診後のアルゴリズム遵守状況. 第 62 回日本臨床細胞学会秋期大会.2023/11.
- 6) 森定徹、寺本勝寛、端晶彦、高野浩邦、原田智佳子、中川陽子、竹綱正典 吉村一榮、手良向聡、小林 陽一、佐々木寛、青木大輔：HPV 検査導入後の細胞診の役割 HPV 検診を検証する RCT の中間報告と HPV 陽性者のトリアージとしての細胞診. 第 62 回日本臨床細胞学会秋期大会.2023/11.
- 7) 齊藤英子、雑賀公美子、森定徹、河野可奈子、中山富雄、高橋宏和、青木大輔. 日本の現状は、子宮頸がん検診で HPV 検査の結果が細胞診の判定に影響する可能性がある。第 32 回日本婦人科がん検診学会・総会.2023/10.
- 8) 齊藤英子、雑賀公美子、高橋宏和、森定徹、青木大輔. 地域保健・健康増進事業データから見た子宮頸がん検診の精密検査についての課題. 第 65 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会.2023/07.
- 9) 岡田結生子、齊藤英子、雑賀公美子、森定徹、青木大輔、高橋宏和. がん検診実施施設における住民検診と職域検診との精度管理状況の違い克服に向けての取り組み. 第 31 回日本がん検診・診断学会総会.2023/06.
- 10) 河野可奈子、雑賀公美子、齊藤英子、森定徹、青木大輔. 住民検診における子宮頸がんを含む子宮頸部異常の発見率の特徴. 第 64 回日本臨床細胞学会総会春期大会.2023/06.

研究分担者 森定 徹

- 1) 齊藤英子、雑賀公美子、森定徹、中山富雄、青木大輔. 「HPV 単独検診による子宮頸がん検診導入」について. 第 31 回日本 CT 検診学会学術集会.2024/3.
- 2) Kono K, Morisada T, Saika K, Saitoh E, Nishio H, Aoki D. Selecting HPV test kits for cervical cancer screening. 8th Biennial Meeting of Asian Society of Gynecologic Oncology. Dec.2023.
- 3) Morisada T, Saika K, Saitoh Aoki E, Kono K, Nakayama T, Kobayashi Y, Aoki D. Role of Cervical Cytology in Anticipation of the Implementation of HPV Primary Screening

研究分担者 雑賀 公美子

- 1) 雑賀公美子. 精度管理なきがん検診はがん対策にあらざー近畿圏域における胃がん・大腸がん検診の『いま』-the path to the future-一, 第 52 回日本消化器がん検診学会近畿地方会, 8 月, 2023.
- 2) 齊藤英子、雑賀公美子、高橋宏和、森定徹、青木大輔. 地域保健・健康増進事業データから見た子宮頸がん検診の精密検査についての課題, 第 65 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 7 月, 2023.
- 3) 雑賀公美子. 精度管理なきがん検診はがん対策にあらざー, 第 31 回日本がん検診・診断学会総

- 会, 6月, 2023.
- 4) 岡田結生子, 齊藤英子, 雑賀公美子, 森定徹, 青木大輔, 高橋宏和. がん検診実施施設における住民検診と職域検診との精度管理状況の違い克服に向けての取り組み 子宮頸がん検診を例に, 第31回日本がん検診・診断学会総会, 6月, 2023.
 - 5) 齊藤英子, 雑賀公美子, 森定徹, 中山富雄, 青木大輔: 「HPV単独検診による子宮頸がん検診導入」について. 第31回日本CT検診学会学術集会.2024/3.
 - 6) Saika K, Saitoh Aoki E, Aoki D. Laboratory issues in implementing cervical cancer screening with HPV testing the case of Japan. Part 1. 8th Biennial Meeting of Asian Society of Gynecologic Oncology. Dec.2023.
 - 7) Saitoh Aoki E, Saika K, Aoki D, Laboratory issues in implementing cervical cancer screening with HPV testing the case of Japan. Part 2. 8th Biennial Meeting of Asian Society of Gynecologic Oncology. Dec.2023.
 - 8) Kono K, Morisada T, Saika K, Saitoh E, Nishio H, Aoki D. Selecting HPV test kits for cervical cancer screening. 8th Biennial Meeting of Asian Society of Gynecologic Oncology. Dec.2023.
 - 9) Morisada T, Saika K, Saitoh Aoki E, Kono K, Nakayama T, Kobayashi Y, Aoki D. Role of Cervical Cytology in Anticipation of the Implementation of HPV Primary Screening in Japan. The 8th Biennial Meeting of Asian Society Gynecologic Oncology. Dec.2023.
 - 10) Aoki E, Saika K, Morisada T, Kono K, Aoki D. Cytological evaluation in the cervical cancer screening program in Japan independent of the test results for HPV? NILM VS. ASC-US in HPV-positive case. The 2023 Annual Global Meeting of the International Gynecologic Cancer Society. Nov.2023.
 - 11) 河野可奈子, 雑賀公美子, 齊藤英子, 森定徹, 青木大輔: HPV検査の有用性を検証するコホート研究における初回検診後のアルゴリズム遵守状況. 第62回日本臨床細胞学会秋期大会. 2023/11.
 - 12) 齊藤英子, 雑賀公美子, 森定徹, 河野可奈子, 中山富雄, 高橋宏和, 青木大輔: 日本の現状は, 子宮頸がん検診で HPV 検査の結果が細胞診の判定に影響する可能性がある. 第32回日本婦人科がん検診学会・総会. 2023/10.
 - 13) 齊藤英子, 青木大輔, 雑賀公美子: 子宮頸部上皮内病変の低侵襲な予後推定マーカー候補についての文兼的検索. 第13回国際医療福祉大学学会学術大会. 2023/09.
 - 14) 齊藤英子, 雑賀公美子, 高橋宏和, 森定徹,

青木大輔: 地域保健・健康増進事業データから見た子宮頸がん検診の精密検査についての課題. 第65回日本婦人科腫瘍学会学術講演会. 2023/07.

- 15) 岡田結生子, 齊藤英子, 雑賀公美子, 森定徹, 青木大輔, 高橋宏和: がん検診実施施設における住民検診と職域検診との精度管理状況の違い克服に向けての取り組み. 第31回日本がん検診・診断学会総会. 2023/06.
- 16) 河野可奈子, 雑賀公美子, 齊藤英子, 森定徹, 青木大輔: 住民検診における子宮頸がんを含む子宮頸部異常の発見率の特徴. 第64回日本臨床細胞学会総会春期大会. 2023/06.
- 17) Saitoh Aoki E, Saika K, Aoki D. Current Status and Challenges for of Cervical Cancer Screening in Japan. 35th International Papillomavirus Conference. Apr. 2023.

研究分担者 細野 寛代
該当なし

研究分担者 町井 涼子

- 1) Impact of COVID-19 for cancer screening and cancer treatment in Japan. Takahashi H, Machii R. International Asian Cancer and Chronic Disease Screening Network (IACCS) 2023 (20231216) Tokyo
- 2) Impact of COVID-19 for cancer screening and cancer treatment in Japan. Takahashi H, Machii R. International Cancer Screening Network 2023 (20230620) Turin
- 3) 町井涼子, 高橋宏和, 中山富雄. 「事業評価のためのチェックリスト」による対策型がん検診の精度管理水準の評価. 第82回日本公衆衛生学会総会. 令和5年11月2日, 筑波.

H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む。)

1. 特許取得
小川俊夫. 指標算出装置, 指標算出方法, およびプログラム (特願 2022-083546), 2022年5月23日提出.
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし